

高度な医療 香川から

遠隔医療システムを実験

香川大学医学部が開発した遠隔医療システムの実証実験が今年11月ごろから、タイで始められることが7日、分かった。同システムが海外で活用されるのは初めて。タイも郡部では医師不足が深刻で、香川大医学部の国際交流委員会委員長を務める徳田雅明教授は「患者がどこにいても、高度な医療が受けられる安全・安心のシステムを、香川から国際展開していきたい」と意気込んでいる。

【吉田卓矢】

実証実験が始まるの療スタッフが妊婦を計は、遠隔医療システム測した胎児心拍数などのうち、香川大瀬戸内のデータをインターネットをを使ってタイ中部宏特任教授のグループのナレースワン大学付が開発した周産期電子属病院に伝送し、病院カルテネットワークシの専門医がリアルタイムで診断する仕組み。システムの英語版。

計画によると、携帯更に、病院間で糖尿できる小型の胎児心拍病患者の診療計画や検出装置をタイ郡部の査データなどのやり取診療所などに置き、医りもできる、香川大医

香川大医学部 医師不足が深刻なタイで

学部付属病院の石田俊彦教授のグループが開発した糖尿病地域連携クリティカルパスの英語版の実証実験も目指す。

（APT）のプロジェクトとして採択。タイ政府やナレースワン大、香川大、電気通信技術を使った国際協力を進めるNPO法人「BHNテレコム支援協議会」（東京都）などが参加する。

昨年8月、タイの医療関係者や政府関係者が、香川大などが進める「かがわ遠隔医療ネットワーク」（K-MIX）などの情報技術（IT）を使った遠隔医療技術を視察。その際、タイ側から、「システムを導入したい」との申し出があり、調整を進めていた。

その後、アジア・太平洋地域の電気通信分野のインフラ整備などを進める「アジア・太平洋電気通信共同体」

徳田教授や同協議会の樽松八平・副理事長らによると、タイも過疎化などで地方の医師不足が深刻といい、各地に診療所のような施設の整備などが進められているが、中核となる病院が無い地域もあるという。今回、ナレースワン大に胎児心拍検出装置を2台導入。地方の診療所に携帯用機器を配備して、実証を進め、来年6月までに成果をまとめる。

る。